

2026年度

一般推薦入試・社会人入試Ⅰ期・帰国生入試Ⅰ期（教育学部）
小論文

（100点90分）

（一般推薦入試 生涯学習学科のみ140点90分）

以下の文章を読み、問題に答えなさい。

アポロ計画は、アメリカ航空宇宙局（NASA）による人類初の月への有人宇宙飛行計画です。

時代は冷戦下——米ソ宇宙開発競争のさなかである1961年5月、アメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディは、1960年代中に人間を月に到達させるとの声明を発表しました。

1969年7月20日に、宇宙飛行士のニール・アームストロングおよびバズ・オルドリンがアポロ11号で月面に着陸したことにより、その公約は実現されました。（中略）

両名は、地球上のおよそ6分の1しかない重力の下で、人間が身軽に動けることを実感しながら、予定されていた各種の行動を始めました。はじめに彼らの飛行を記念したプレートを月面に置き、次に星条旗を立てました。

私は2015年9月、東京大学で「理科教育法」の集中講義をおこなっていました。そのときの受講生は少なく、中高理科の教職免許を取得希望している理系学部・大学院の7人でした。その受講生たちに、「アポロ宇宙船は月面に着陸したか？」と質問してみたのです。（中略）

「月面着陸はなかった」が4人に対し、「月面着陸はあった」が3人でした。（中略）

「月面着陸はなかった」と思った学生たちに理由を聞いてみると、テレビの影響が強いです。彼らは、アポロ宇宙船の月面着陸の映像は、ハリウッドのスタジオで撮影されたもので、ないことをあるように偽って作りあげた陰謀論なのだという「アポロ月着陸陰謀論」のテレビ映像を観て、ある程度納得していたのです。（中略）

「月面着陸はなかった」と思った学生たちの胸中を捉えたのは、とくに真空の月面上で「アメリカ国旗が掲げられ揺れている」という「事実」だったようです。風が吹くはずもない月面上で国旗が揺れているのはおかしいと思ったのです。

ここには「真空だと旗はなびかない」という判断があったことでしょう。しかし実際は真空でも旗はなびます。（後略）

（左巻健男『陰謀論とニセ科学—あなたもだまされている—』ワニブックス PLUS 新書、2022年より）

問題1. 下線部「真空でも旗はなびます」について、なぜそのようになるのか20字～100字で説明しなさい。

問題2. 上の文章に見られるような陰謀論が現在世界各地で問題視されています。陰謀論の具体例を挙げながら、陰謀論を簡単に信じたりだまされたりしないようにするためにどのような教育が行われるべきか、自分の意見を780字～900字で述べなさい。